

# きのと小だより

## 燦

合言葉：みんなで力を合わせて、子どもの方をしっかりと向いて、  
大事に大事に育てましょう。 平成27年9月1日 8号

自信を得て、自分を「よし」とできる子に

校長 金子 智

保護者の皆様 地域の皆様 夏休み期間中、子どもたちを危険から守ってくださり心から感謝いたします。おかげさまで全員そろって2学期を迎えることができました。ありがとうございました。

- 8月25日から3日間、6年生が9月17日に行われる胎内市の小学校親善陸上大会に向けて練習をしました。乙中学校の金川晃先生が教えてくださいました。

「腕を速く振れば速く走れます。そのために親指があごにつく位まで振りあげます。その腕をグッと勢いよく後ろに引くように振ると、反動でスッと前にもどります。腕はそのようにすると速く振ることができます。いいですね。では50回やってみましょう。」

笛の合図で腕を振り始めました。「なるほどなるほど そうすればいいのか。」と納得の上での練習です。そのように練習すれば速く走れるようになるのだと希望を持っての練習です。練習に気迫がこもります。まさしく「専門性は子どもの力を引き出す」でした。練習が子どもたちに希望を与えていました。練習が自信を得させていました。

- 夏休みの間に、職員みんなで学校の整理整頓を行いました。棚を片付けていた職員が、「校長先生、これを見てください。」まるで宝物を見つけたとばかりに手に持った箱を私に差し出しました。箱には「創立10周年記念10年後の自分あてのハガキ在中 10年後に投函H16. 11. 16」とありました。

箱の中にはクラス毎に丁寧に包装されたハガキが入っていました。一番上にあつた6年生のハガキの包みを開けて読ませてもらいました。こう記してありました。

「10年後の私へ

今、私は何をしていますか。

今、どこに住んでいますか。

今、どんなことをがんばっていますか。

もう車の免許は取りましたか。

10年後の私、がんばってね。」

なんと読後感 爽やかなステキな文章でしょう。この方が自分のことを「よし」としている気持ちが伝わってきます。読んだ私も嬉しくなりました。

当時のきのと小学校もきっと、子どものできることを丹念に丹念に増やすことを大事にし、自信を得させ、自分を「よし」とする実践を積み重ねてこられたに違いありません。自分へ宛てた短い「ハガキ文」からこんなことを感じ取りました。また物事を見るとき、まずは肯定できることを探すことから出発することの大切さをも思いました。

今の子どもたちにも「10年後の私に手紙を書きましょう」と促せば間違いなくこの方と同じような手紙を書くことでしょう。

10年後の「自分に宛てたこのハガキ」これから投函します。

黄金に波打つ稲穂 喜びの収穫も間もなくです。